

【美郷町立美郷北義務教育学校】

事業の実施時期：補助を受けた日から令和6年3月1日

活動の概要

- 全校児童・生徒を対象にSDGsに関する学びを行い、各学年の発達段階に応じた活動、各委員会による活動を行った。
- 美郷町の自然と関連づけた環境教育を行いながら、その自然を大切にするにはどのような活動をしていくべきか考え、実践した。

SDGsの視点：「4 質の高い教育をみんなに」「6 安全な水とトイレを世界中に」「11 住み続けられるまちづくりを」

「12 つくる責任 つかう責任」「14 海の豊かさを守ろう」「15 陸の豊かさを守ろう」

1 学校の概要

本校は、2015年4月に北郷中学校、北郷小学校、北郷幼稚園の幼小中一貫校「美郷北学園」と



して開校した。2021年4月には宮崎県初の義務教育学校となり、幼小中11年間をつなげる教育を行っている。本校が位置する美郷町は、自然豊かな環境であり、児童生徒たちは自然に親しみながら生活を送っている。今年度は「SDCs～Smile・Dream・Challenge～」を目標として掲げ、活動している。児童生徒会活動において、ペットボトルキャップ回収など、4Rに関する活動にも取り組んでいる。

2 活動のねらい

児童・生徒がこれまでに行ってきた活動を、4R、SDGsの観点に結びつけて行うことにより、環境に対する意識を高めていくとともに、自ら環境に働きかけるための思考力・実践力等を身に付けられるようにした。また、地域と連携しながら活動を行うことにより、我が校が目指す「ふるさとを愛する児童生徒」の育成を図った。

3 活動内容

(1) SDGsに関する講話

SDGsの基本について学習するために、株式会社シンク・オブ・アザーズの難波裕扶子さんに講話を行っていただいた。

幼稚園～4年生には、SDGsに関する絵本を紹介していただいた。また、5年生～9年生を対象に、地球環境の実際について説明がされた後、グループに分かれて17の持続可能な開発目標について、どれを優先させるかについて話し合った。講話を聞いた後だったため、生徒たち自身の意見をそれぞれもつことができ、有意義な時間となった。



(2) 4Rに関する講話

リサイクルに関する学習を行うために、3・4年生を対象にニチバン株式会社の方に出席授業をしていただいた。児童たちはリサイクルの現状、森の大切さなどについて学ぶことができた。この講話の中で、テープの巻き心を回収し、森の植林活動につなげる「ニチバン巻き心ECOプロジェクト」が紹介されており、児童たちが自発的に

巻き心回収ボックスを作って各学級に呼びかけるなど、リサイクルに対して非常に高い関心を示した。ニチバン株式会社から感謝状とともにいただいた花の種は、次年度の環境教育で活用する予定である。



(3) SDGs・4R促進うちわ作成

夏休みに児童生徒のSDGsや4Rの意識を高めるためのうちわデザインを募集した。地球や森林、川などの他に、本校のマスコットキャラクター「きららちゃん」をモチーフにするデザインが多く集まった。児童生徒会を中心に選定し、代表に選ばれたデザインをうちわに掲載した。作成したうちわは全校児童生徒に配付した他、地域の催しの際に学校外部の方へ配布した。



(4) 地域の川における調査

本校の1～2年生は、毎年学校の近くを流れる五十鈴川で川遊びを行っている。今年度はそれに合わせて川に生息している生物を採集し、それらの指標生物をもとに川の水質調査を行った。その結果、ヒラタカゲロウ類やトビゲラ類などが見付き、きれいな水～ややきれいな水であると分かった。このきれいな環境をどのように持続させていくかについて考えさせていきたい。



(5) 理科学習における水質調査

9年生の学習内容において、身近な環境調査の単元がある。今年度は、美郷町を流れる川の水を採取し、水質調査を行った。町内9カ所の水質を調べたところ、ほとんどの場所でややきれいな水であるという結果が出た。結果は地図にまとめて掲示した。また、汚れた水をきれいな水にする浄化装置には、炭が活用されているということが話題にあがり、美郷町特産の備長炭を使用して泥水をきれいな水にできるかの実験も行った。実験の際、生徒たちが美郷町の環境をきれいにするために、リサイクルの重要性などについて話す様子が見られた。

(6) 生態系の学習

7年生を対象に、リバーパル五ヶ瀬川の協力を得て干潟やその周辺の動植物についての学習をした。生徒たちは美郷町には見られない干潟での生物を観察したり、フィールドビンゴを通して植物についての説明を聞いたりして、美郷町の生態系との違いを学んだ。生物を観察する際、その周辺にたくさんのごみが落ちており、生徒たちは自発的にごみ拾いを行っていた。



(7) プラスチックごみ削減運動

児童生徒はSDGsに関する学習の中で、海洋プラスチックごみに関する問題について知った。そこで、生徒会を中心に、

学校全体でできるプラスチックを削減する取組として給食の牛乳を飲む際に、プラスチックストローを使用しないということと呼びかけた。多くの児童生徒がストローを使用せずに牛乳を飲んでおり、以前に比べてプラスチック使用量を削減することができている。

(8) 竹灯籠づくり

保護者にも4Rの意識を高めていただくために、家庭教育学級の1つとして、北郷区の林研グループの方の協力を得て地域素材の有効利用として学校周辺の竹を使った竹灯籠を親子で製作した。製作した作品は、北郷の宵灯（よいあかり）という祭りで展示された。



(9) 椎茸を使用した商品開発

昨年度から学校敷地内で栽培した椎茸を使用した商品開発を行っている。学年ごとに役割分担をし、商品開発、試作品作成、椎茸栽培、PRのためのCM・ポスター・のぼりなどの作成を行った。この活動を通して、北郷の特産物に親しみをもつ児童生徒が増えた。商品は3月に行われる宇納間地蔵大祭で販売する。



(10) SDGsひとりいち宣言

SDGsに関する講話を聞いた後、全児童生徒が環境を守るための具体的な取組を設定し、校長室でそれを宣言するという活動を行った。宣言の内容は児童生徒がよく

通る下足室付近に掲示してあり、意識付けを図っている。宣言をした際にSDGsアイコンのバッジを渡し、児童生徒は制服の胸部分や名札に付けている。



(11) 学校HPを活用した情報発信

(1)~(10)の活動については、その都度学校ホームページを活用して積極的に発信した。本校のホームページは年間10万アクセスを超えており、学校外の方にも広く教育活動を見ていただくことができている。

4 成果と課題

【成果】

4RやSDGsの講話を聞くことで、現在の環境問題について詳しく知ることができた。また、各学年の発達段階に応じた活動を行うことで、自然を大切にするという意識をもたせることができた。それらの活動をもとに各自で具体的な目標を設定することで、児童生徒はこれらの問題を自分の身近なこととしてとらえ、日常生活の中でも自然にリサイクルや環境問題について考える生徒が多くなった。

【課題】

今年度は各学年において様々な体験活動を行うことができたが、次年度以降は継続することが難しいものもある。限られた時間や予算の中で、いかに児童生徒たちの意識を高め続けていくかが課題と思われる。

学校名： 美郷町立美郷北義務教育学校
 住所： 美郷町北郷宇納間798番地
 電話番号： 0982-62-5019
 E-mail： 2012jb@miyazaki-c.ed.jp